

担当者スポット

日廃振センター業務から感じたことを綴る「担当者のコラム」

教育研修部 参与 山田 正晴　YAMADA Masaharu

第二の人生

センターに勤務し早や9か月、産業廃棄物処理業の許可に関する講習会を担当し、これまで12都道県を回り多くの受講者と接し、自治体や産業廃棄物協会の方々とも知りあえ、程よい緊張感と充実した日々を過ごしている。

しかし昨年の春先は、環境も変わり不慣れな仕事、今まで経験しなかった都会の通勤ラッシュがとても辛かった。

ちょうどその頃、TBSの日曜劇場で「新参者」が放映され始めた。江戸の匂いも残る日本橋人形町を舞台に日本橋署に着任した刑事が、新たな未知の土地で事件を解決する内容である。

舞台がセンターの所在する人形町だったことや、第二の人生を歩み始めた時期で、境遇も少し重なる気がし、欠かさず見て人の繋がりの大切さや働く元気をもらった。

さて、「団塊の世代」と言われた私たちも皆60歳を過ぎ、かつて「人生50年」と言われたが、今や有数の長寿大国となった日本、「人生80年」時代とも言われている。そう考えると、還暦（60歳）は二回目の成人式のようなもので、その立場になって、将来を真剣に考えるようになった。

昨年、永年務めたS県を退職する頃、これからの将来に向けて読んだ書物の中に、作家の江坂 彰 氏が雑誌に掲載した「新しい生活を楽しむための12か条」というのがあった。とても記憶に残っており、参考までに紹介したいと思う。

1. 物の整理をする。
2. 妻とのネットワークを大事にして住む地を選ぶ
3. 自分の部屋を持つ
4. 生活の40%は、家の外で過ごす
5. ここぞという時には、ちょっと贅沢をする
6. 月に一度は旅に出る
7. 以前捨てた夢に挑戦してみる
8. 趣味は二つ持つ（自分自身のものと夫婦共通のもの）
9. 若い人も参加する趣味を持つ
10. 好みの飲食店を数軒、見つける
11. 同窓、職場の中から友人を作る
12. 趣味や旅を通し、新しい友人を作る

というもので、努力が足りないドキッとする箇所も沢山あり、12か条を目指し昨年から、昔好きだった山登りと写真を復活させ、充実した休みを過ごし始めた。

まだまだ人生これから。チャレンジ精神を持って仕事をし、趣味や交友をさらに深めたいと思う。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年も各方面の方々のご協力を得まして、本誌を計画どおり発行することができましたことに、あらためて御礼申し上げます。特に、1年間に亘り「コラム」および「連載講義」の執筆を賜った武田先生および杉山先生、また、「特別企画」、「行政だより」、「電子マニフェスト情報」等に寄稿いただいた方々や産廃クローズアップの取材に対応いただいた事業所関係者の皆様に、紙面を借りて感謝申し上げます。

さて、本号は新春号ということで、当センターが平素ご指導、ご協力を賜っている環境省、（財）産業廃棄物処理事業振興財団、（社）全国産業廃棄物連合会から、年頭のご挨拶をいただきました。あらためて気を引き締めているところです。

当センターの広報活動は、本誌とホームページを両輪として進めておりますが、本年は、それぞれ、その特徴を活かしつつ、より充実した内容で当センターからの情報と産業廃棄物に関わられておられる皆様からの元気な情報をお届けできるように、更に努力を積重ねる所存です。

本年も、従来同様、本誌発行について、ご指導、ご協力を賜りたくお願いする次第です。（尾崎）

【アンケートへのご協力のお願い】

日廃振センターのホームページでは、本誌のPDFファイルを掲載しています。ウェブアンケートで皆さまからのご意見等をお聞かせください。

URL http://www.jwnet.or.jp/publish/kikansi_desc10_4.shtml

本誌に関する連絡先：事業推進部　e-mail:jigyo@jwnet.or.jp

日廃振センター情報（季刊）Vol.10 No.4　発行日：平成23年1月18日発行　発行人：岡澤和好
発行所：財団法人日本産業廃棄物処理振興センター
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町2-8-4 日本橋コアビル2階　TEL: 03-3668-6511　FAX: 03-3668-6512　http://www.jwnet.or.jp/
デザイン・印刷　株式会社ウィトンズ